JIPA Chugoku
Japan Interior Planner's Association
日本インテリアプランナー協会中国

2023 vol.28
通信
communication

〒731-5135
広島市佐伯区海老園 1-13-7
㈲エルイーオー設計室 内
tel ：090-7540-8975
https://jipac.org
e-mail : cipa.chugoku@gmail.com

小田原を過ぎ熱海の手前に無人の根府川駅がある。箱根外輪山を背にし相模湾に面した元蜜柑畑に「小田原文化財団 . 江之浦測候所」があります。ここはギャラリー、石舞台、茶室、庭園、門や待合棟からなり、日本の建築工法を再現、造園計画は平安末期の作庭を再検証し数十年に渡り収集された古墳時代から近世までの考古遺物や古材が使用されています。「時代は臨界点に至りアートは表現すべき対象を見失ってしまった。そこでもう一度人類意識の発生現場に立ち戻って」…と杉本 博さんが。

ここから先には行ってはいけません
石はそう言っている
ここから先には何があるのだろう
果てしなく続く無の世界か
酒池肉林の宴か
懐かしい人の待つ桃源郷か
己の心の醜さにタラ～リタラ～リと
脂汗を流してしまう鏡の間か
いやいや　何のことはない
人生の現実がポッカリ穴を空けているだけかも
そろり…と…ひと足またいでみたいが…
身体は石になって動かない

宮田洋子

日本インテリアプランナー協会　中国協会 会員の皆様、日頃よりにインテリアプランナー協会の活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。

中国協会は前年にコロナ後の初の全国大会という、大きな役割を中国協会で受け持つこととなりました。全国大会に際し中国協会では大会会場を下関へと選定し、大会の成功へ向けて会員の皆様で様々な準備をしてきましたが、度重なる非常事態宣言の中で、打合せの調整にも難航する中、移動制限の影響を受け数度の大会延期という数々の困難がありました。その様な苦しい状況下でも、中国会員の皆様のご尽力のお陰で無事に全国の会員の方々を下関へお招きすることが出来ました。その甲斐もあって、全国大会は大成功を納め、全国の会員の方々から本当に数多くの御礼と感謝と称賛のお言葉を頂きました。会長として不慣れな点も多く、ご迷惑をお掛けしたことと思いますが、ひとえに会員の皆様のお力添えの成果だと感謝しております。

最後になりましたが、今後ともインテリアプランナー協会の活動にご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会長：伊藤 晋司

今号は例年と異なり、昨年下関で開催されました、全国大会２０２２の様子をお送りいたします。２日間に渡る大会の日程はこちら　→

まずは休日のお昼時、観光客で賑わう**唐戸市場**の会議室に集合して、大会セレモニーです。JIPA 加藤会長のあいさつに始まり、基調講演は元中国放送アナウンサー、小沢先生による左右のお話でした。

11/19 Sat

■大会セレモニー　＜唐戸市場＞

基調講演「ふしぎ探検！暮らしのなかの右・左」…p.3

■懇親会　＜ 春帆楼 ＞

出し物「長唄杵勝会　杵屋勝禄絵氏」

各委員会・各地域協会　活動報告

11/20 Sun

本州最西端の魅力スポットを巡るバスツアー　…p.4
唐戸周辺建物ウォッチング　…p.5
門司港レトロ周辺建物ウォッチング　…p.6

セレモニー後、ちょうど晴れ間が出てきたので外で集合写真を撮影。懇親会場へ移動しました。

会場の「春帆楼」は日清講和条約（1895 年）の舞台にもなった老舗のフグ料亭です。霜野前会長の乾杯で懇親会がスタート。

出し物は杵屋勝禄絵氏による、長唄・三味線の独演会。料理はなんとフクのフルコースを堪能させて頂きました。その後、時間いっぱいまで各委員会の活動報告、各地域協会の活動報告が続き、次回開催予定の関西協会に引き継ぐ形で宴会は幕を閉じるのでした。

基調講演、エクスカーションの報告は次ページから≫

なんと本大会の様子(ﾀﾞｲｼﾞｪｽﾄ)が動画でも見れます！
大会に参加された方もされてない方も、
右の QR コードから今すぐアクセス！

基調講演：ふしぎ探検！暮らしのなかの右・左

講師：小沢 康甫（元中国放送アナウンサー）

事務局：中川 圭子

小沢さんは、以前、中国放送の制作や報道の現場で働いておられました。

テレビ制作部で午前中の生番組を担当していたとき、右と左をテーマに取り上げて３０分の特集を放送。その日が、３月３日の「桃の節句」に当たっていたことから、内裏雛の男雛・女雛の並べ方を手始めに、結婚披露宴の新郎新婦の並びや銭湯の男湯・女湯、道路の通行法など、左右をめぐる、さまざまな不思議を解き明かすという趣向。この放送は意外に大きな反響を呼び、その後、本気になって左右に関する情報を集め始められたそうです。

普段何気なく見過ごしている風景がこんなにも面白いとは講演を聞いて、再認識させていただきました。

その講演のお話の中から冒頭のお話を記載させていただきます。

まずはこの駒を…馬の文字が左右逆に書かれている。食堂などに置いて商売繁盛の縁起物としている。

この文字にはある名前がついている。

何と呼ばれているか。　**「左馬」**という。

縁起物とされている理由については、こんな説がある。

① 馬の文字が逆に書かれているから、ウマを逆さに読んでマウを意味、舞は古来、めでたい席につきもの。
だから左馬は**「福を招く」**という。

② 馬は人に引かれるもの。しかし、その逆だから人が馬に引かれて入ってくる。
すなわち**「先客万来」**を意味する。

右を含む言い回し…**「右に出るものはない」「右腕」「右へならえ」**など右は優れているというニュアンス

一方、左を含むことば…**「左前」「左遷」**など右に比べて左は劣るというイメージ

→　しかし、**「左馬」**という呼び方には、むしろ左こそ幸せを招くという意味合いがある。

それから、とっておきの手段をいう場合に「奥の手」という。

奥の手は古代、右手、左手のどちらかを指していただろうか？

→古代、奥の手は左手のことを言っていた。

左を「奥」というのに対し、**右は「へ（辺）」**といった。

辺境・辺地の**「辺」**という字をあてて、**「へ」**と読む。つまり、端っこ。

こうした表現からは、古代日本人はどうやら、右よりも左を重んじていたらしいと想像できる。

→このように、ことば一つ取り上げても右と左をめぐる文化の奥深さに触れる思いがする。

左右の不思議は、じつはそこら中に転がっています。

みなさんが見慣れている家の中、あるいは街や村の風景の中に潜んでいる。

（ふすまや窓ガラスの右手前、アーケードや地下街ではなぜか左側を歩く）

ただ、こうした左右の不思議はその気になってみなければ、見れども見えず、なのです。

誰もが見逃しそうな何気ない風景のなかに

左右の謎解きの「ウキウキ・ワクワク」を見いだす―――

これこそが、左右のふしぎ探検の醍醐味です。

小沢 康甫

エクスカーション：本州最西端の魅力スポットを巡るバスツアー

中川 裕二

全国から来られた 16 名の皆様と周辺のナイススポットへバスツアー…。

先ずは元乃隅神社へ、123 基の朱塗り鳥居が青い海に映え１００ｍ以上の景色は圧巻です。

次は 2000 年に開通した角島大橋、全長 1780m のコバルトブルーの海に掛かっている美しい橋です。

そして角島灯台(1876 年-)は高さ 30m の総御影石でできており、日本で 2 基しかない無塗装灯台の一つです。
灯台上からのパノラマはコバルトブルーの絶景です。

昼食はこの地域一番人気の瓦そば＋鰻めしを堪能して頂きました。

その後近くの川棚の杜コルトーホール(隈研吾設計)と安養寺(隈研吾設計)を見学し下関に予定時間に到着しました。

天気も曇りから薄晴れと持ち直しラッキーな見所満載のバスツアーでした。

エクスカーション：唐戸周辺建物ウォッチング

副会長：北村　圭

当中国協会の加々良さんに地元の唐戸周辺を案内して頂くウォーキングツアーは、計 15 名の参加となりました。
古くから港町として栄えた下関の中心地、唐戸で今回訪れた主なスポットは以下になります。

① 旧秋田商会ビル（下関観光情報センター）
② 旧逓信省下関電信局（田中絹代ぶんか館）
③ 旧宮崎商館（吉田メディカルクリニック）
④ 引接寺
⑤ 春帆楼
⑥ 赤間神宮
⑦ 壇ノ浦漁港の船だまり
⑧ 旧下関英国領事館

案内人の加々良さん

旧〇〇と付いている建物は明治から大正にかけて建てられた近代日本を象徴する洋館たちです。今となってはレトロで可愛いこれらの洋館群から始まり、江戸時代に朝鮮通信使が泊まった**引接寺**、日清講和条約が結ばれた**春帆楼**、更にはルーツを源平合戦の壇ノ浦の戦いにまで遡る**赤間神宮**と、幾重にも重なる唐戸の歴史を感じるツアーでした。最後は旧英国領事館で館長さん自ら解説を頂いた後（⑨）、本格的なアフタヌーンティー（⑩）を堪能させて頂きました。これ見栄だけでなく本当に美味しいので、是非おすすめです。

エクスカーション：門司港レトロ周辺建物ウォッチング

副会長：常永 洋一郎

門司散策コースは、中部協会・九州協会・中国協会より総勢 18 名の参加となりました。

今回の見学コースは、九州協会副会長の権藤さんのプロデュース＆アテンド。見どころは、いわずもがな門司港レトロ地区の歴史的建築物の数々。

門司駅をはじめ、旧門司税関・旧大阪商船・門司電気通信ビルなどかつての門司港の繁栄を窺い知ることのできる建築物に参加者一同興味深く見入る。

さらに今回のこのコースの魅力は、そうした誰もが知るいわゆる「門司港レトロ地区」から一歩足を延ばし、知る人ぞ知る隠れた門司の“ディープスポット”のご紹介。

かつて馬場遊郭として知られた地区に残る元遊郭を改修したゲストハウス。当時の趣きを色濃く残しつつ、ゲストハウスとして今もなおその姿を残す。

栄町銀天街・中央市場。地元の生活感を肌で感じる事のできる商店街。

ホルモン焼き店で酒宴を楽しむ人々、アーケードから吊り下げる看板ひとつとっても、すべてが自然に溶け込み、門司独特の雰囲気をつくり上げている要素のように感じました。

かつては近代日本史における三大港として数えられ、明治から昭和初期にかけて繁栄し、終戦とともに次第に衰退。その後、行政と民間の協力のもと、1995 年に『門司港レトロ』として生まれ変わり、今では年間 200 万人以上の人が訪れる観光地として、新たな歴史を歩んでいる。栄枯盛衰。止まっているようででもゆっくりとした時間の流れが感じられる、歴史深い魅力的な港町門司。いつかこのノスタルジーを味わいに再び訪れたいと思う。

ご参加いただきました中部協会と九州協会の皆様、また今回共同企画をお引き受けいただきました九州協会権藤様、中国協会一同、重ねて御礼申し上げます。

蘇った古民家で佐官職人、岡下誠司さんに鏝絵の魅力についての
座談会を予定しています。秋、開催予定！

鏝絵の魅力

鏝絵は,「うなぎえ」と皆さん読みますが,「こてえ」が正解です。鏝絵は,新築祝いに職人さんの粋な 計らいで壁の見えるようで見えない場所に漆喰で縁起物を描くものです。以前，一緒に仕事をしていた 豊栄町の職人さんが 3 時頃になると急に居なくなるんですよ。どこにいるのかなと思ったら，住宅の上の 方で鶴や松をささっと描いていて，その姿にとても感動しました。

法人会員のご紹介

- ◆ 株式会社ウッドワン
  http://www.woodone.co.jp/
- ◆ 大光電機株式会社
  http://www2.lighting-daiko.co.jp
- ◆ 株式会社テックス
  http://tex-21.com
- ◆ トーソー株式会社広島支店
  http://www.toso.co.jp/
- ◆ （株）小城六右衛門商店
  http://www.ogirokuemon.com/
- ◆ 福井コンピューターアーキテクト株式会社
  https://hd.fukuicompu.co.jp/
- ◆ 高山石油ガス株式会社
  https://takayama-gas.jp

■二次試験対策講座の開催！

個人指導にて素晴らしい合格率を誇っています。

この度より、トップページのコメントを GlassMuse ガラス造形作家 / 宮田洋子さんが担当してくださる事になりました。どうぞお楽しみに・・・

https://glassmuse.net

← HP

編集後記

一年半かけて、古民家を再生した。
まさか本当にできるとは、奇跡 .. 笑
沢山の難題が次々と … でも沢山の人たちのお陰でやっとここまで完成した。

改めて思う。
家って生きてるな～と。
分かっていたつもりの事が実はちっとも分かっていなかった事にも気付かされた。

この場所がこれからどう変化、成長していくのだろう。

事務局

編集：北村 圭
表紙写真：中川 裕二

発行：日本インテリアプランナー協会 中国
〒731-5135 広島市佐伯区海老園 1-13-7
tel ： 090-7540-8975
https://jipac.org
mail ： cipa.chugoku@gmail.com
発行日：令和 5 年 6 月
編集：日本インテリアプランナー協会 中国 事務局